

平成 21 年度 財団法人栃木県民公園福祉協会事業報告

1 事業の取組

当協会は昭和 47 年 10 月の設立以来 37 年にわたり、公益法人として県営都市公園の管理・運営を一手に担い、これらを通して県民福祉の増進と文化の向上に寄与してきた。また、遊園地やプールなどの自主事業や花と緑をテーマにした各種イベントを展開することにより、様々な魅力を付加し県営都市公園が持つ機能の充実、発展に寄与してきた。

当協会は、平成 21 年度を初年度とする第二次指定管理者として、栃木県から「総合運動公園、井頭公園、那須野が原公園、みかも山公園、日光だいや川公園、日光田母沢御用邸記念公園、とちぎわんぱく公園」の 7 つの県営都市公園の指定管理者に指定された。

平成 21 年度からは指定管理者として志を新たにし、長年にわたり蓄積してきたノウハウを十分に発揮しながら、「喜ばれ、愛され、親しまれるとちぎの都市公園」を目標に、事業計画書に基づいた管理運営に、職員が一丸となって取り組んだ。

2 事業の概要

平成 21 年度の公園利用者総数は約 3,958 千人で、前年度に比較して約 573 千人（前年度比 16.9%）増加した。利用者増の要因としては、広報活動の強化、イベントの実施などを講じてきたほか、経済状況の悪化に伴う安く・近く・短時間で余暇を楽しむ傾向に都市公園が合致したこと、9 月にも 5 連休（シルバーウィーク）があったこと等が考えられる。

事業としては、公益事業・都市緑化事業・公園管理受託事業・収益事業の 4 事業をもって構成しており、平成 21 年度における事業毎の概要は次のとおりである。

(1) 公益事業（一般会計）

公益事業は、総合運動公園、井頭公園、那須野が原公園の 3 公園で、低廉で安心・安全・快適な遊園地及びプールのレクリエーション施設を運営し、約 152 万人の利用者があり、県民福祉の向上や健康の増進、余暇活動の充実に大いに寄与している。

利便性の向上を図る方法として、プール入場券販売については、コンビニにおける割引オンライン販売を実施しているが、平成 21 年度については、プール利用者の約 3 割がコンビニでの購入であった。

施設整備状況は、総合運動公園とちのきファミリーランドのスカイパンダリミット配線張替、ジェットコースター柱脚塗装を実施した。

また、井頭公園一万人プールにおいては、下段プールろ過器ろ材交換・配管等の修繕や上段プールろ過配管設備の修繕、ウォータースライダー階段他塗装工事の実施や、那須野

が原公園ファミリープールにおいては、流水プール・遊泳プール北側の人工芝張替工事を実施した。

施設利用者数及び事業収入は、総合運動公園とちのきファミリーランドは計画を上回ったが、井頭公園一人プール及び那須野が原公園ファミリープールは、前半の天候不順が影響し、ともに計画を下回った。

各公園の利用者総数は、計画の 107.8% (1,525 千人)、事業収入は、計画の 101.7% (267,448 千円) であった。

(2) 都市緑化事業（都市緑化事業特別会計）

都市緑化事業は、花と緑あふれる街づくりを進めるため、都市緑化基金や収益事業で得た益金等を積極的に活用し、県民の都市緑化意識の高揚を図るため、県民参加型の緑化普及啓発事業を行っている。

この事業は「緑の普及啓発」、「緑の街づくり」、「緑育むひとづくり」を柱とする通年事業・都市緑化月間事業・公園利用促進事業の三部で構成し、その実施状況は次のとおりである。

① 通年事業

第2回目の2年目となるボランティアリーダー養成事業や従来からの花みどりいっぱい街づくり事業（11 団体）、私たちの花壇事業など8事業を実施し、県民や地域団体が行う緑化推進活動の支援・活性化を図った。

また、各公園のホームページの充実化に努め、累計アクセス数が約 38 万件を数えた。

② 都市緑化月間事業

都市緑化月間にとちぎわんぱく公園をメイン会場、井頭公園、那須野が原公園、みかも山公園、日光だいや川公園をサブ会場として「とちぎグリーンフェスタ 2009」を開催した。

地元関係機関や各報道機関との連携・協力のもと、各会場で地元の郷土芸能や参加体験型イベント、売店出店などを実施し、5会場で約 13 万 3 千人の人出があった。

③ 公園利用促進事業

各県営都市公園の特色ある旬の緑や花などをテーマにしたイベントを開催し、都市緑化の推進と公園利用の促進を図った。

(3) 公園管理受託事業（公園管理受託事業特別会計）

各県営都市公園の維持管理に当たっては予算の効率的・効果的な執行を図り快適な公園づくりに努めるとともに、施設の運営管理に当たっては多様なソフト事業を取り入れて利用増進に努めた。

① 公園維持管理

公園の維持管理に要する県からの受託額は総額約 741 百万円で、予算の効率的・効果的な執行を図り、公園利用者の視点に立って、明るく・安全・安心・清潔な公園を目指し、園地の管理、園内巡視の徹底やトイレの清掃などに努めた。

② 施設運営

ア 利用料金制

各公園の利用者総数は、計画の 103.5% (429 千人)、事業収入は、計画の 97.3% (175,684 千円) であり、井頭公園や日光だいや川公園の利用人数及び利用料金は計画を上回った。

イ 使用料制

使用料制の総合運動公園の陸上競技場等の運動施設は、利用者数、収入ともに前年度を上回った。

③ 緑の相談所事業

井頭公園、那須野が原公園、みかも山公園、日光だいや川公園の各緑の相談所に 2 名の相談員を配し、緑に関する県民からの相談や緑化講習会・展示会を開催し緑化の普及・啓発を実施した。

④ 体験学習事業

みかも山公園、日光だいや川公園、とちぎわんぱく公園において、農業体験やクラブト教室などの体験学習講習会等を実施した。

(4) 収益事業（公園事業特別会計）

各公園において、貸自転車、バッテリーカーなどの遊具の貸し出し、売店や自動販売機の設置運営を行い、公園利用者の利便の向上に努めた。

各公園の利用者総数は、計画の 111.6% (188 千人)、事業収入は、計画の 99.8% (295,131 千円) であった。なお、当事業の収益金約 57.4 百万円を公益事業（一般会計 22 百万円）と都市緑化事業（都市緑化事業特別会計 25.4 百万円）と受託事業（公園管理受託事業特別会計 10 百万円）へ財源繰り出しし、低廉な施設利用料の堅持と各種イベントの開催など公園利用の促進に努めた。